

総務委員会資料

所管事務の調査（報告）

人口150万人突破について

資料1 川崎市の人口が150万人を突破しました！

資料2 150万人都市記念の取組について

平成29年4月27日

総務企画局



川崎市の人口が

150万人を突破しました

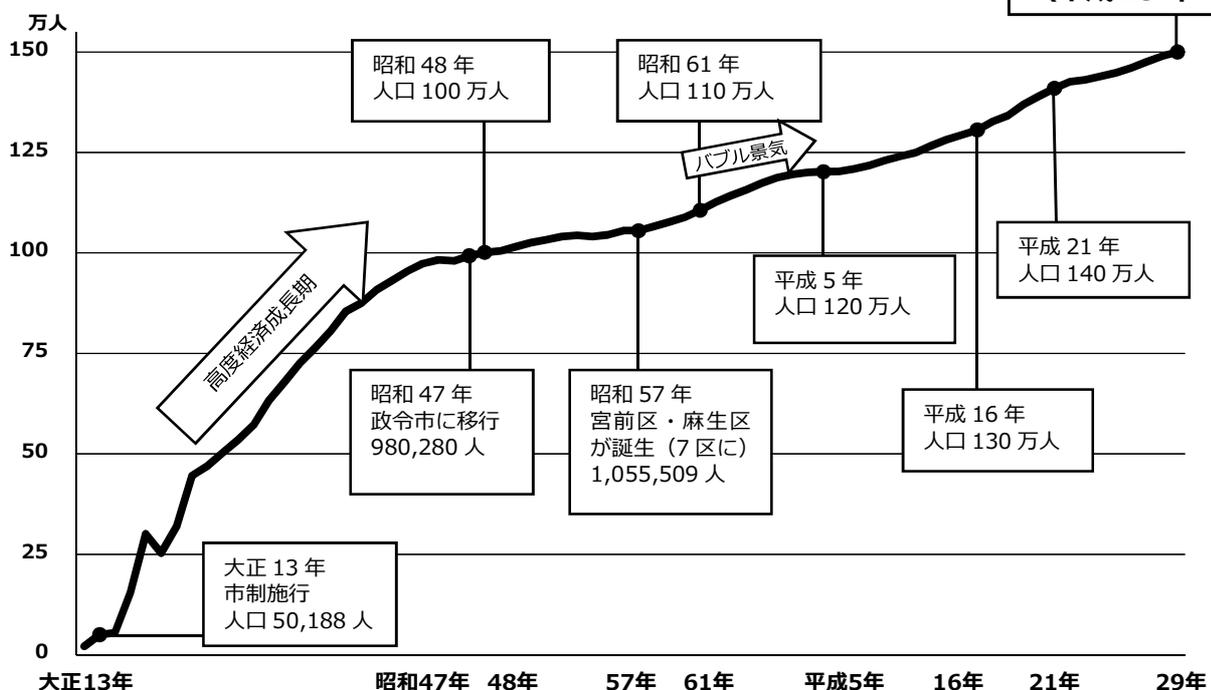
川崎市

平成 29 年 4 月 24 日現在で川崎市の人口は 150 万人を突破し、1,500,052 人となりました。

川崎市は大正 13 年に人口約 5 万人でスタートし、政令市に移行した翌年の昭和 48 年に 100 万人を超えました。

その後、昭和 61 年に 110 万人、平成 5 年に 120 万人、平成 16 年に 130 万人、平成 21 年に 140 万人と人口増加が続き、この平成 29 年 4 月に 150 万人を突破しました。

人口の推移

人口 150万人突破！
(平成 29 年 4 月)

川崎市

主な出来事

全国

川崎市	全国
大正13年 (大正13年) 川崎市が誕生	大正12年 (大正12年) 関東大震災
昭和30年代 (昭和30年代) 核として発展 京浜工業地帯の中 核として発展	昭和22年~24年 (昭和22年~24年) 太平洋戦争
昭和47年 (昭和47年) 政令指定都市と なる	昭和39年 (昭和39年) 第1次ベビーブー ム
昭和48年 (昭和48年) 政令指定都市と なる	昭和46年~49年 (昭和46年~49年) 東京オリンピック 東京オリンピック 第2次ベビーブー ム
昭和57年 (昭和57年) 宮前区・麻生区が 誕生、7行政区制 に	昭和53年 (昭和53年) 札幌オリンピック 札幌オリンピック 新東京国際空港 開港
昭和61年 (昭和61年) 開業 地下街「アゼリア」 誕生	昭和58年 (昭和58年) 東京ディズニー ランド開園
平成5年 (平成5年) 川崎フロントアレ 設立	昭和61年 (昭和61年) バブル景気 バブル景気
平成16年 (平成16年) 「ノクティ」オープ ン 東京湾アクアライン 開通	平成2年 (平成2年) 東京ディズニー ランド開園
平成21年 (平成21年) ミューザ川崎開館 小杉駅開業	平成7年 (平成7年) 阪神・淡路大震災
平成29年 (平成29年) 藤子・F・不二雄 ミュージアム開館 JR横須賀線武蔵 小杉駅開業	平成10年 (平成10年) 長野オリンピック 長野オリンピック オニバーサルスタジ オ・ジャパン開園

- ・ 140 万人を超えた平成 21 年と比べ、市内全区で人口が増加
- ・ 全国で人口が減少する中、出生数が死亡数を上回る自然増加が続く
- ・ 平成 9 年以降、転入が転出を上回る社会増加が続く
- ・ 交通の利便性の良さなどから、20 歳代を中心とした若い世代の流入が多い
- ・ 他政令指定都市と比較すると、人口は第 7 位、自然増加数は第 1 位

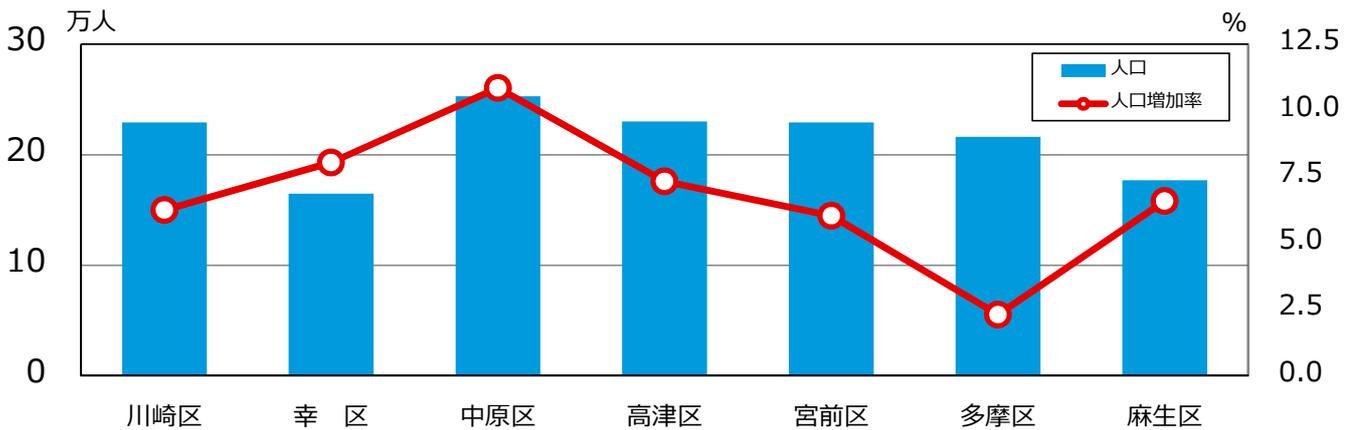
140 万人突破時との比較

全市・区別の人口・人口増加数、増加率

	全市	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区
平成29年	1,500,052	229,114	165,033	253,013	230,280	229,098	216,365	177,149
平成21年	1,404,932	215,646	152,746	228,253	214,548	216,067	211,479	166,193
増加数	95,120	13,468	12,287	24,760	15,732	13,031	4,886	10,956
増加率	6.77	6.25	8.04	10.85	7.33	6.03	2.31	6.59

(注) 平成 29 年は 4 月 24 日現在、平成 21 年は 5 月 1 日現在の人口

区別の人口・人口増加率のグラフ

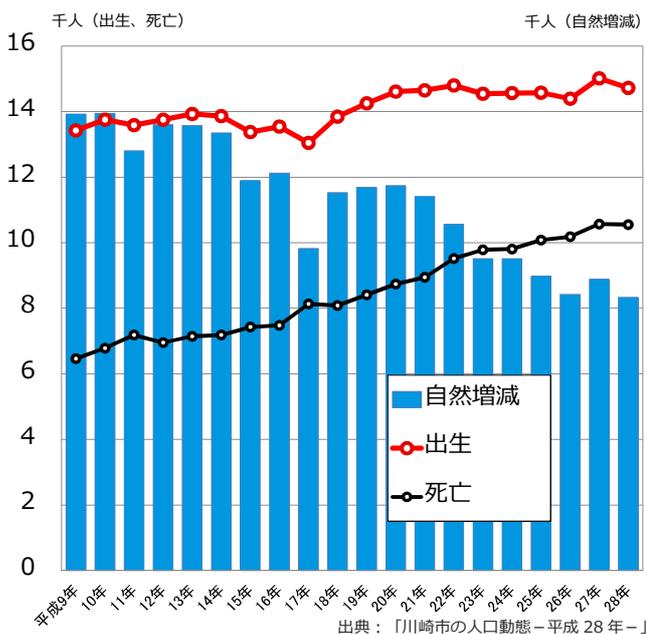


(注) 人口は平成 29 年 4 月 24 日現在、人口増加率は平成 21 年 5 月 1 日現在の増加率

全ての区で人口が増加
特に中原区は人口、人口増加率ともに 1 位

人口の動き

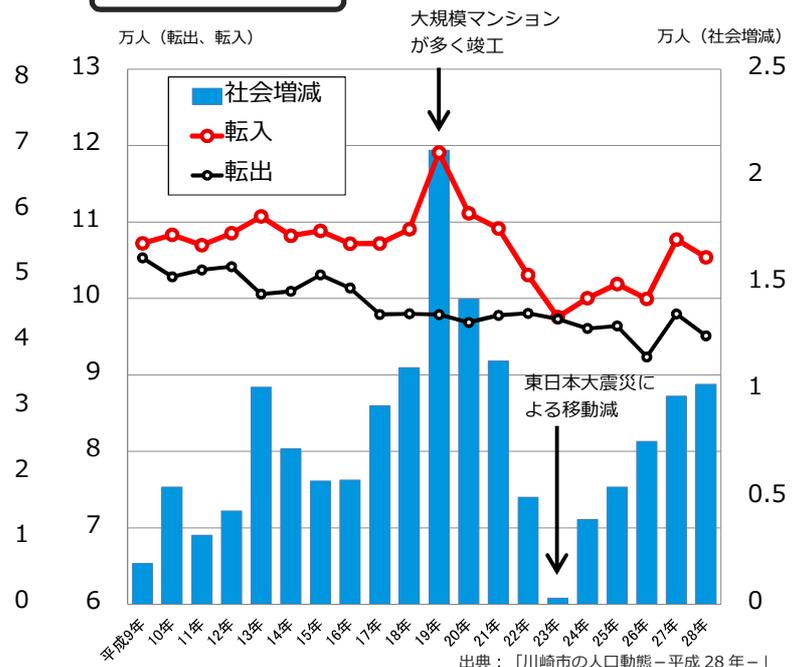
自然増減の推移



出典：「川崎市の人口動態-平成 28 年-」

自然減となる都市が多い中、平成 19 年以降出生数が 14,000 人を上回っており、自然増加が続く

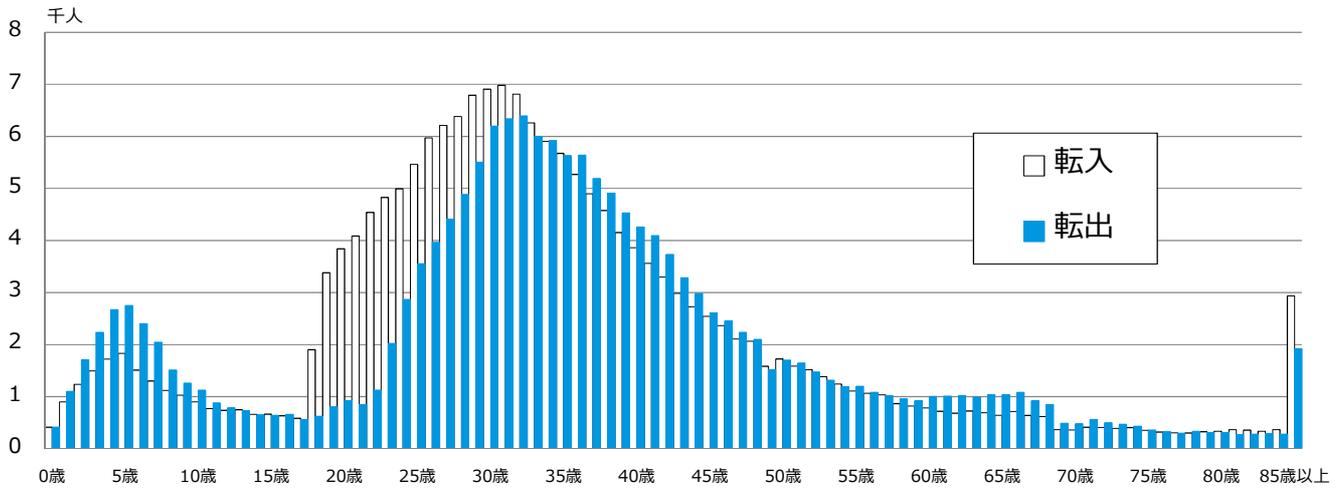
社会増減の推移



出典：「川崎市の人口動態-平成 28 年-」

平成 9 年以降、転入超過による社会増加が続く

年齢別の転入・転出数



出典：平成 27 年国勢調査結果（平成 27 年 10 月 1 日現在）

転入：川崎市内在住者で、5 年前の常住地が川崎市以外

転出：川崎市外在住者で、5 年前の常住地が川崎市

10 代後半から 30 代前半の若い世代の転入超過が特徴

他政令指定都市との比較

都市別の人口

順位	都市名	人口 (人)
1	横浜市	3,728,021
2	大阪市	2,702,242
3	名古屋市	2,306,083
4	札幌市	1,957,990
5	福岡市	1,557,102
6	神戸市	1,533,290
7	川崎市	1,500,052
8	京都市	1,471,482
9	さいたま市	1,277,637
10	広島市	1,197,179
11	仙台市	1,084,627
12	千葉市	973,183
13	北九州市	953,943
14	堺市	836,109
15	新潟市	806,113
16	浜松市	796,329
17	熊本市	739,471
18	相模原市	721,099
19	岡山市	720,579
20	静岡市	700,430

注：川崎市は平成 29 年 4 月 24 日現在、他都市は平成 29 年 3 月 1 日現在の人口

年齢 3 区分別人口割合



出典：平成 27 年国勢調査結果（平成 27 年 10 月 1 日現在）

平成 27 年に京都市の人口を上回り、政令指定都市で 7 番目の人口となった
15 歳から 64 歳までの生産年齢人口の割合が最も高く、65 歳以上の老年人口の割合が最も低い

自然増加数		
		(人)
1	川崎市	3,119
2	福岡市	2,928
3	広島市	538
4	仙台市	322
5	さいたま市	54
6	熊本市	△ 5
7	岡山市	△ 216
8	相模原市	△ 646
9	浜松市	△ 1 014
10	千葉市	△ 1 161
11	堺市	△ 1 319
12	名古屋市	△ 1 705
12	新潟市	△ 2 405
14	静岡市	△ 2 426
15	京都市	△ 2 907
16	横浜市	△ 2 988
17	北九州市	△ 3 005
18	神戸市	△ 3 159
19	札幌市	△ 4 097
20	大阪市	△ 6 478

平成28年自然増加数
(出生数-死亡数)

出生率		
		(%)
1	熊本市	0.97
2	福岡市	0.94
3	広島市	0.90
3	川崎市	0.90
5	岡山市	0.88
6	浜松市	0.86
7	名古屋市	0.85
8	堺市	0.84
9	大阪市	0.83
9	北九州市	0.83
11	仙台市	0.82
12	神戸市	0.80
12	さいたま市	0.80
14	京都市	0.77
14	新潟市	0.77
14	横浜市	0.77
14	静岡市	0.77
18	札幌市	0.75
19	千葉市	0.72
20	相模原市	0.71

平成28年出生数÷人口
(平成28年10月1日現在)×100

婚姻率		
		(%)
1	大阪市	0.72
2	福岡市	0.69
3	川崎市	0.63
4	名古屋市	0.62
5	仙台市	0.59
6	京都市	0.58
6	札幌市	0.58
8	熊本市	0.56
9	広島市	0.55
9	神戸市	0.55
11	岡山市	0.54
12	横浜市	0.52
12	北九州市	0.52
14	さいたま市	0.51
15	堺市	0.50
16	静岡市	0.49
16	浜松市	0.49
18	千葉市	0.47
18	新潟市	0.47
20	相模原市	0.45

平成28年婚姻届出件数÷人口
(平成28年10月1日現在)×100

出典：人口動態統計速報（厚生労働省）平成28年1月～12月

若い世代の市民が多いことから、自然増加数、出生率、婚姻率が高い

問い合わせ先
総務企画局情報管理部統計情報課
電話 200-2069（内線21613）

150 万人都市記念の取組について

150 万人を突破した記念すべき節目を多くの方とお祝いするとともに、シティプロモーションの好機ととらえ、今後本市で展開される様々な事業等を活用し本市の活力や魅力を発信してまいります。

1 今後の取組

今後本市で展開される様々な事業等において工夫を凝らした取組について「150 万人都市記念」と銘打つなど、150 万人都市を発信するとともに、市民の皆様と一緒に喜び、より一層川崎に愛着を感じていただく取組を実施します。

《取組の趣旨》

- ・市民のシビックプライドの醸成
- ・他都市と比較して若くて元気のある都市ということのアピール
- ・川崎の発展に大きく貢献されたシニア世代の皆さんに「自分たちの頑張りが今日の繁栄につながっている。」といった誇りとそれに対する感謝の気持ち

2 取組期間

平成 29 年 4 月 26 日から平成 29 年 12 月 31 日まで

3 150 万人都市記念マークの作成

本市の様々な事業において、統一感を持って情報発信するため、「150 万人都市記念マーク」を作成しました。

コンセプト

昨年度策定したブランドメッセージと親和性のあるデザインとすることで、本市の持つ多彩な魅力や多様性を表現し、また、「多くの皆さんに川崎で暮らすことを選んでいただいたことで人口 150 万人を突破した。」ことを祝福するイメージを持たせました。



問い合わせ先

総務企画局シティプロモーション推進室 三瓶・山根

電話 044-200-2252